

# 子育て環境日本一を目指すために

いま子育て中の皆さんに聞いてみました。

## 私の提言

### 若い世代はもっと育成会に参加を

◆部活動や育成会未加入のため行事に参加できない子どもが増えている

私の住んでいる町内は、ほかの行政区に比べ、子どもの数が多いように思う。

そのため、育成会行事が盛んで、特に、塩釜神社の「八坂祭」や、市の「ふるさと祭」には多くの子どもが参加し、たくさんの親たちがそれをサポートして、毎年、山車やみこしの運行を行っている。

当然、育成会ばかりでなく婦人部の皆さんが作ってくれるおいしいカレーライスは、行政区からの差し入れやご褒美のおやつを楽しみに参加する子ども達も少なくないと思う。

こんな楽しいお祭りなのに、最近では、「部活動の試合などで忙しい」「育成会の役員に当たってしまう」と休日に仕事をしている親は行事に参加協力が難しいなど、子どもにはどうすることもできない理由によって参加できない子どもたちが増えているように思う。とても悲しいことだ。

参加協力が難しいなど、子どもにはどうすることもできない理由によって参加できない子どもたちが増えているように思う。とても悲しいことだ。



#### ◆育成会に率先して参加を

地域コミュニティは、地域住民のつながりや支えあいであり、地域の活性化にとても重要である。まずは育成会に参加することが地域に溶け込む第一歩だと思う。

親同士は育成会で知り合える機会が増えることによって、子育てや学校の話などが共有でき、各種行事でコミュニケーションを深められる。また親が子ども時代に経験した育成会

の楽しい思い出を子どもたちに伝えるためにも、親が率先して育成会に参加し、各種行事を盛り上げていたいただきたいと思う。

#### ◆若い世代の輪が地域を支え、住み心地の良い矢板市に

少子高齢化の時代であり、高齢者の孤独死や子どもを狙う犯罪や事故などが増加しつつある現状と、東日本大震災で経験した不安を踏まえる

と、地域の方々のつながりや支えあいが大切であり、安心の基盤となると考えます。地域の若い世代が知り合いになって行くことで、人とのつながりができ、子ども同士や親同士、または近所同士、さらには地域の方々と輪が広がり、住み心地の良い矢板市、もっと活気あふれる矢板市になると思う。

(中学生一人、小学生二人のお父さん)

## 岡目八目



塩谷広域行政組合 消防本部消防長 高橋久之さん (60歳)

喜連川で生まれ育ち、現在も。趣味はスロージョギング(散歩程度)、読書(特に時代物歴史物)、退職後は釣りも楽しみたいとのこと。

#### 矢板のお気に入りの場所は？

生まれ育ったのが喜連川ですので、高原山は子どもの頃から毎日見て過ごしたなじみのある山です。今でも朝の散歩中の朝焼けの高原山からは元気をもらえるような気がします。通勤途中で見る四季折々の高原山は素晴らしいと思います。

#### 矢板のお気に入りの食堂は？

矢板市民の生命と財産を守るのが消防の使命です。署員全員がいつでも緊急対応できるよう休憩時間は一応していません。だから昼食も合間を見て愛妻弁当がコンビニ弁当で済ませます。そんなことから矢板市内のお店

#### 大忙しの消防本部

塩谷広域行政組合管内では昨年、4065件の救急出動件数(119番)がありました。それを本部分計で6台の救急車に対応しています。車内には携帯電話を2台常備し、受け入れ先病院の連絡に使用しますが、場合によっては2台の携帯電話を並行して使用し、受け入れ病院探しを行うことがあります。入院の必要の無い軽症の患者が約40%います。慌てたり、気が動転することはありません。

#### 救急出動について

矢板署には救急車が2台ありますが、2台とも出動中の場合はほとんど行くことはありません。塩谷広域行政組合は隣接署の救急車が到着するまでポンプ隊が対応しています。

#### 火災防止のお願い

矢板市内では、一昨年から少し減りましたが、昨年も月に平均すると2件の火災が発生しました。早期発見、被害の最小化、そして逃げ遅

れ予防のため、ぜひ、住宅用火災報知機を設置していただきたい。

条例化されましたが設置率はまだ52%です。必ず寝室や階段の上に設置してください。また、台所には定温式(熱感知)の付加設置をお勧めします。また、風の強い日は戸外で火を燃やさないようにしてください。

#### 消防団には感謝

消防団にはいつも協力をいただいています。特に同時多発的な場合は消防署だけでは対応しきれません。先般の台風の時にも消防団の方々に集合してもらい、各地域を分担していただき対応することが出来ました。

非常時には消防団の協力と隣近所の助け合いがとても有難いです。(T・M)

#### 編集後記

修フ行一た持研がにネま気のかがイル動うの「あー」感動。うらまらきショ張るなり